

作成日:平成 28 年 6 月 13 日

**学校法人 滋慶学園 東京メディカル・スポーツ専門学校**  
**平成 28 年度 学校関係者評価委員会議事録**

議事録作成者: 藤田 直人

1. 開催日時 平成 28 年 6 月 13 日 (月) 15:00~17:00

2. 開催場所 滋慶学園東京本部会議室

3. 参加者 学校関係者評価委員

藤野 浩一郎	業界関係者 (一般社団法人 T M G 本部 人事副部長)
高井 豊	業界関係者 (医療法人社団森山会リハビリテーション統括部長)
宇梶 義男	業界関係者 (ムーヴアクション株式会社 代表)
牛込 公一	卒業生代表 (有限会社ティ・シー・ティー 代表取締役)
嶋崎 明子	保護者代表
深澤 昇	高校関係者 (正則学園高等学校 元学校長)
沼倉 英理	近隣関係者 (行船管理有限会社 副社長)

学校側参加者

古島 暉大	学校法人 滋慶学園 評議員
関口 正雄	東京メディカル・スポーツ専門学校 学校長
松川 勝吉	東京メディカル・スポーツ専門学校 事務局長
渡辺 三郎	東京メディカル・スポーツ専門学校 教務部長
篠田 美和	東京メディカル・スポーツ専門学校 広報センター長
藤田 直人	東京メディカル・スポーツ専門学校 学生サービスセンター長

4. 会議の概要

- (1) 学校長挨拶
- (2) 委嘱状交付 (継続者)
- (3) 平成 26 年度自己点検・自己評価結果報告  
及び平成 27 年度重点目標の説明
- (4) 質疑応答

## 議事

### (1) 学校長挨拶

学校の評価には、自己評価と外部評価（第三者評価）がある。自己点検・自己評価は義務化されており第三者評価は、専門学校では努力義務である。職業実践専門課程は文部科学省が認可し、その運営には学校関係者評価委員会を必ず開催し評価を受けることになり、ゆえに本校は自己点検・自己評価が義務になる。求めているのは、利害関係者に自己評価・自己点検を見ていただき、教育の質の担保ができているかを確認していただくことになる。この委員会は、その評価や意見を取り入れ教育に質の向上につなげていく大切な場と考えています。

今、本校の持つ学科は制度的な変更時期にあたり、柔整と鍼灸は大幅に単位数や時間数が増やすことが決まっている。きっかけは、岸和田の学校の運営に疑問を持った学校協会が厚生労働省に働きかけたことにある。理学療法士についても地域包括システムの導入が関係しその内容によっては、PTの数を減らす可能性があり、就職にも影響がでる可能性がある。それらを見据えて今後の学校の質の向上を求めたい。新しい学種についても、大学の内側に新しい制度を作ることになり、その以降には専門学校としても大きな課題がある。ここ4～5年で大きな波が来る中で、外部の方の目で学校を見ていただきたい。どうしても学校は、目標達成志向になりつまり内向きになってしまう。どうか忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。

### (2) 委員紹介及び委嘱状交付

継続 藤野 浩一郎・牛込 公一

### (3) H27年度自己評価内容とH28年度重点目標説明

・学校概要の説明 学校の設立、学科、組織目的の紹介

・平成27年度自己点検評価内容（渡辺教務部長）

#### 1. 教育理念・目的・育成人材像

職業人教育を通じて社会に貢献する・・・学園のミッション

建学の理念 （実学教育・人間教育・国際教育）

組織目的 『医療資格＋スポーツ』で、スポーツ傷害の予防と治療ができる人材を輩出する。そして、健康社会の実現やスポーツ文化の発展に寄与することで社会に貢献する。

4つの信頼（学生保護者、高等学校、業界、地域）

育成人材像 学科毎に養成目的、教育目標を設定

将来的な目標 退学者0. 就職100%、資格取得100%、1年以内離職0

特色ある教育活動への取組み

3つのクロス運営組織（スポーツ部・プロフェッショナル部・キャリア教育部）

学科横断プログラム（AT専攻、エクステンション講座・トレーナークラブ）

## 2. 学校運営

意思決定システム 方針の共有と講堂の徹底をする 判断基準の明示

情報とコミュニケーションを共有する

運営会議ですべて戦略を決定する

学園本部の機能紹介・・・PC管理、給与に関すること

## 3. 教育活動

3年5年後の姿・・・養成目的

卒業時の姿・・・教育目標

職業人教育＝専門職業教育+キャリア教育・・・人間教育を行うことを大切にしている。

## 4. 学習成果

卒業生196名 就職希望者180名（91.8%）

内定者180名（100%）

専門職就職率162名（97%）

卒業生の活躍を紹介

退学率 3.3%（23名）

課題 学ぶことが楽しいと思える環境作り 導入教育の改善・クロス運営の導入

1年次低学力者対策の強化

## 5. 学習支援

慶生会クリニック 滋慶トータルサポートセンター 学生寮の設置している

学費・クラブ活動・卒後支援（技術講習会の開催）

保護者連携 保護者会の開催

## 6 教育支援

海外研修については、昨年度はアメリカで3学科が実施

## 7. 学生の募集と受け入れ

高等学校への情報提供

8. 財務 専門の部署である学園本部機能がやっている
9. 法令順守 グループとして取り組んでいる。
10. 社会貢献 フランスのエステ学校を毎年、来校している。

#### 平成28年度の重点目標

##### 【数値目標】

1. 中途退学者 25名 (3.5%)
2. 入学者数 230名
3. 国家試験合格率 94.7% (学校全体)

##### 【重点目標】

1. 中途退学者数を減少させる
2. 「医療資格+スポーツ」の学びを強化する
3. コンプライアンスを強化する

#### 各委員からのご質問・ご意見

(藤野) 安否確認のシステムは、自分のグループでも採用している。評価が3になるには、どんなことが必要と考えられるか。

(藤田) 安否確認は、全教職員と全学生を網羅している。管理運営する職員の対応で苦慮しているのは、学生がアドレスを頻繁に変更しメールが届かないことが必ず数パーセントでてしまう。また拒否設定をしている学生もいる。全員にメールが行き渡るには、難しい面もある。自然災害には、想定外なことがあり評価3をつけるのは、私自身としてはあまり自信がない。

(藤野) うちの組織でも、抜き打ちでメールを配信するなどして対応をしている。

(深澤) 入学前の教育に興味を持った。高3の夏に進路が決まると、目的意識を失いがちになる。土曜スクールなどを実施して高校では、対応していた。ですから進学先からの事前課題は、100%やらせるように指導している。また以前は、学力の低い学生が専門学校に進学していたが、今は学力が高い学生も専門学校に進学する。大学もそれに対して組織変えていると聞く。

教育の原点は、自分がやりたいと思うことだと思う。

(嶋崎) 子どもがどのくらい授業を理解しているかわからないことが多い。読解力や文章理解ができておらず苦勞する学生が多いと聞く。そのことが理由で仲のいい友達が辞めて

しまうと、本人も落ち込んでしまうこともあった。文章理解などを高める取り組みは、必要だと思うし、評価できる。また娘は、テスト前の勉強だけでなく、小テストの実施により勉強する習慣を身につけた。この取り組みも良いと感じている。

海外研修の費用は学費に入れられないか。

(渡辺) 10万円を入学時に預かった時期もあった。今は、5万円だけにしている。

(篠田) 海外の状況もあり、実施そのものが難しい時もある。

(嶋崎) クラスの中で参加組と不参加組で分かれてしまうことがあるそうです。

個人ロッカーはどうですか。

(藤田) 養成施設の規定上、人数分のロッカーは用意されているが、運用の問題が多く個人には、貸出ししていない。実技授業の着替えなどに使用している。教科書を置いていくことやカギの管理、盗難など難しい問題が多い。

(牛込) 実学教育を掲げているが、トレーナーを目指すことと国家試験に合格させることを両立させるのは難しいのではないか。

(篠田) プロチームのトレーナーになりたい、地域に貢献したいなど様々な希望を持って学生は入学してくる。3年、4年の学びで到達できるものではないと考えている。その一歩として学校ではフォローをし、卒業してから業界の方々にお力を借りることにより夢が叶うと考えている。そんなサポートを在学中にできればと思っている。

(牛込) 開業したが、やはり店をたたんでいる人もいる。そんな人たちに何かフォローをする考えはないか。

(渡辺) 昨日、同窓会会長と会合を持つ機会があり、同窓会の活性化について話をした。その中で開業している人や雇われ院長などが集まってワーキングチームなどを作ってはどうかという話になった。そんな中で、何かいい意見ができればと思う。今後の検討材料にしたい。

(牛込) 登録販売者の資格を取らせてはどうか。

(渡辺) 持ち帰って検討したい。